

# 子どもの集団遊びを探る

## プロジェクト構成員

上田悠以 小原朋紀 張婷

## 指導教員

加藤 弘 (教育学部)

## 【演習の背景・目的】

この演習に参加したきっかけは、指導教員の勧めがあったからだ。

私たちは加藤ゼミで子どもが好きだ、と普段から話していた。だから、将来は子どもに関わる仕事がしたいと話していた。そんなある日、ゼミで話をしていると、先生が「子どもはみんなで遊ぶことが大好き。遊びの天才だ。そんな子どもたちが、普段遊び慣れている園庭に見慣れないモノがあらわれたとき、どのような反応をするのかをみてみたらおもしろいのではないか。そのモノをつかってどんな遊びをつくりだすのかを観察するのも楽しいかもしれない。」と口にして、クリエの存在を教えてくれた。そこで演習に参加したわけである。

私たちは例えば、ボールを与えられるとサッカーをしたり、バスケットボールをしたり、すぐにスポーツを始めてしまう。このようになるのは私たちがサッカーやバスケットボールというスポーツを知っていてさらにルールも知っているからである。これは私たちが成長するに従って入ってきた情報が知識となって「こうするものだ。」と認識しているからである。したがってボールを与えられると取ってしまう行動がある程度予測できてしまう。一方、成長途中の子どもたちはまだ私たちほど知識がない。だから、ボールを与えられるとすぐにパスをして、、、などというルールなどもまだない。どんな反応をするのか予測することが難しく、だから興味も湧く。

このような子どもの自由な発想を見よう、というのがこの演習の目的である。私たちから特に何も働きかけることもせず、ただ、子どもたちの反応を観察することに徹した。

## 【演習の実施方法】

- ・ 和歌山市内にある保育園に協力していただいた。
- ・ 朝、子どもたちが登園してくるまでにピッコロパークを園庭に設置しておく。普段遊んでいる園庭に突然現れたピッコロパークに対して、子どもたちがどのように反応するのか、ピッコロパークをどう使って遊ぶのかをビデオで観察した。

### 観察対象

園庭で遊ぶ子どもたち。

0歳：4名

1歳：5名

2歳：8名

3歳：19名

4歳：18名

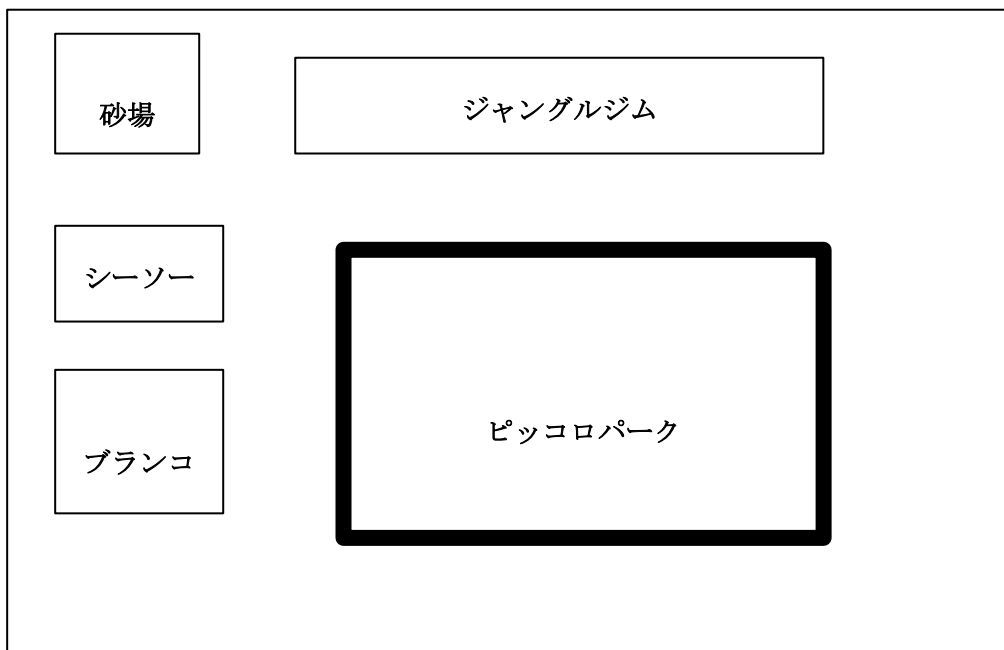
5歳：21名

## 観察時間

- ・ 子どもたちが登園してくる午前9：00頃から朝礼が始まるまでの約30分間。
- ・ 授業中。
- ・ 観察は全部で6回行なった。

## 【設置場所&観察場所】

[太陽保育園、園庭]



## ピッコロパークとは・・・

ボールが勢い良く跳ね返るネットを使ったパネルと、2つ折りミニゴールの組合せで小スペースのサッカー場を形成する装置。



パネル	● 重量：6.1kg ● サイズ：(H)610×(W)2000mm ● 材質：ネット/ポリエステル、パイプ/スチールメッキ製
とびら	● 重量：2.7kg ● サイズ：(H)610×(W)660 mm ● 材質：ネット/ポリエステル、パイプ/スチールメッキ製
コーナー	● 重量：3.6kg ● サイズ：(H)610×(W)500mm ラウンド 785mm ● 材質：ネット/ポリエステル、パイプ/スチールメッキ製
ミニゴール	<u>「2つ折りミニゴール」K-2 (キッズゴール)</u> ● 重量：9kg ● サイズ：(H)780×(W)2000×(D)730mm ● 材質：ネット/ビニロン、パイプ/スチールメッキ製
保護カバー	● 材質：ウレタン樹脂

<http://www.showa-kikai.com/skill/> より

## ピッコロパークを用いた理由・・・

指導教員である加藤先生がサッカー練習器具、ゴール、ターゲットの開発を行っている昌和機械工業所とピッコロパークの開発に携わっていたので、こういう装置があることを教えてくれたため。

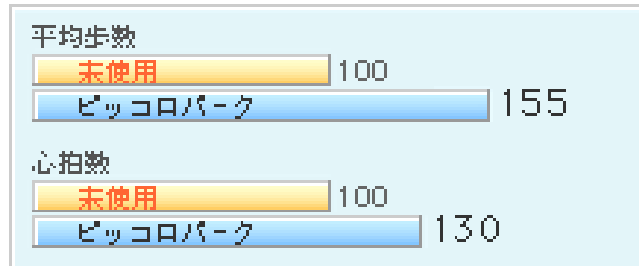
ピッコロパークを用いるとこどもの運動量が上がった。という結果も出ており、こどもたちが活発に動き回ってくれるのではないかと考えたため。

### 歩数で約 55%、心拍数で約 30%活動量が向上。

七木田敦教授(広島大学大学院 教育学研究科)の研究は、保育園児 14 名を囲い(ピッコロパーク)の中で 15 分間サッカー遊びをさせ、身体活動量を測定しました。

囲いのない場所でも同様に行いました。歩数計と心拍計で計測し運動量と心拍を比較したところ、囲いを用いたときの方が、そうでないときよりも平均歩数で約 55%(囲いがあるとき平均 1,944 歩)、心拍数で約 30%活動量が向上しました。

ピッコロパーク使用時と、未使用時の運動量の違い(15分間・未使用時を100とした場合)



<http://www.showa-kikai.com/skill/index.html#pikkoro> より

## 【演習の成果】

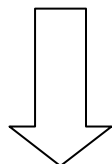
### 仮説

- ・ 集団に別れる。
- ・ 同じ子がボールを触る。
- ・ ピッコロパークを乗り越える子が出てくる。
- ・ 子どもたちがピッコロパーク内で四隅に別れる。

### 結論

～仮説から～

- ・ 集団で遊ぶのは難しい。
- ・ 子どもたちは各々で好きなように遊んでいた(一輪車、ボール、三輪車、お絵描き)。
- ・ ピッコロパークを乗り越えることはあったがそれを使った遊びの活動の中ではなかった。
- ・ その場にとどまることなく常に動き回っていた。



今回ピッコロパークを使用したことで「その中で何をして遊ぼうか」と、子どもが何を  
して遊ぶかを考えるキッカケを与えることはできた。

今回の観察では集団で遊ぶことが見られず、一つの遊びに没頭することが見られた。また、子どもが遊びのルールを考案する場面を見たが、そういう場面は年中、年長で見られ、それより下の年代の子どもたちではルールを作ることが見られなかった。これらより、ルールを作るなどして集団で遊びだすのは小学校になってからで  
はないかと考えた。その他、柵がない状態でも同じことが言えるのか等、今後の研究の課題にしていきたい。

## 【感想】

最初、先生からこの演習を勧められたときは一体どういうことをするのか全く想像もつかず、ピッコロパークも一体何のことかわかりませんでした。だからどんな作業からすすめればよいのかも全くわからず、不安で仕方ありませんでした。しかし、協力してくださった保育園の園長先生や保育士の方々がとても温かく迎えてくださり、少しも嫌な顔もすることなく協力してくださったおかげで、不安も徐々に薄れていき、少しずつですが作業を進めることができました。

観察していると、「子どもとはこういうものだ。」と知らないうちに決め付けてしまっていた自分たちに気づき、改めて確認したことや、驚いたこともたくさんありました。「子どもとはこういうものだ。」と決め付けてしまわずに子どもたちに向かうのがよい、と感じました。

作業を進めていくのに嫌になることもしばしばありましたが、子どもたちがとても可愛らしくて、観察していてもさまざまな発見があったことにたすけられました。とてもおもしろかったです。

計画もきちんとたてないままに進めてしまったのに、何とか終わらせることができたのは本当に保育園の方々の協力があったからだと思います。ほんとうにありがとうございました。

## 【その他】

自主研究コンクールにも参加。

## 子どもたちが遊ぶ様子



